

日本付着生物学会40周年記念シンポジウム
「環境と付着生物との係わりの視点から今後 10 年先の付着生物研究を展望する」
ご案内と参加者募集

2012 年 9 月

日本付着生物学会 会長 加戸隆介

日本付着生物学会は、40周年記念シンポジウム「環境と付着生物との係わりの視点から今後10年先の付着生物研究を展望する」を下記の要領で開催いたしますので、積極的なご参加をお願い申し上げます。

参加をご希望の方は、**2012年10月25日(木)**までに下記宛に申し込んでください。

シンポジウムのご案内は、日本付着生物学会のホームページ(<http://www.sosj.jp/>)およびSESSILE ORGANISMS 29巻2号でもお知らせします。

記

主 催: 日本付着生物学会

開催日時: 2012 年 11 月 8 日(木)9: 15~17: 00

開催場所: 東京大学農学部弥生講堂一条ホール

参加費ほか(当日徴収): 会員参加費 1,000円、非会員参加費 3,000円、懇親会費 4,000円

参加申込: 「参加申込書」に必要事項を記入し、**2012年10月25日(木)**までに電子メールの添付書類として下記、参加申込・問合せ先にお送りください。

参加申込・問合せ先: CANPANセンター ACNet事務局「日本付着生物学会」担当

E-mail: ac035-ses@canpan.org

Fax : 03-6229-5116

住 所: 〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2日本財団ビル

開催趣旨

今後、10年先までの付着生物研究を考えると、環境との係わりを意識したテーマがますます重要になってくると考えられる。環境問題の重要性は言うまでも無いが、地球レベルで見ると温暖化、海洋の酸性化および生物の越境移動がある。我が国沿岸を見ると、内湾・干潟の再生、海藻採貝漁業の持続可能な運営、東日本大震災での沿岸環境の変化と水質汚濁への懸念等が挙げられる。

付着生物は、動き回り移動する生物と異なり人目に触れやすいことから、「環境の言葉が聞ける指標生物」でもある。また、ワカメやノリ、アワビやカキは我々日本人の生活と切っても切り離せない食べ物である。さらに、温暖化対策に関連して注目される海洋再生エネルギー利用に際しては、それら発電装置への生物汚損も発生するであろう。このように考えると、生物付着現象や付着生物に関する研究は、今後社会が必要とする懸案に答えていける可能性が充分にあると思われる。

平野禮次郎先生、梶原 武先生らが立ち上げられた学会の前身である付着生物研究会の設立から 40 年を経た今、「日本付着生物学会 40 周年記念シンポジウム 環境と付着生物との係わりの視点から今後 10 年先の付着生物研究を展望する」では、上述の背景・課題を意識したプログラムとした。

プログラム

9:00 受付

9:15~9: 35 会長挨拶および日本付着生物学会 40 年の歩み

加戸隆介(日本付着生物学会会長)

9:35~11:55 午前の部

I 地球環境問題と生物多様性保全

1. 船舶の運航を巡る生物の越境移動問題と国際的規制の今後の方向性

華山伸一(海洋政策研究財団)

2. 海産固着性動植物と環境変動に関する最新の知見と予測

中島祐一(東京大学アジア生物資源環境研究センター)

3. 港湾の付着生物相の現状から沿岸域の付着生物の生態系サービスを考える

上村了美(国土技術政策総合研究所)

4. コケムシの分類学・生態学から見た付着生物研究の可能性と課題

広瀬雅人(東京大学大気海洋研究所)

11:55~12:55 昼休み

12:55~14:40 午後の部 (1)

5. 水産物と共に移動する穿孔性多毛類

大越和加(東北大学農学部)

II 産業利用につながる研究

6. 食品としての海藻産業の現状と今後の研究課題

佐藤陽一(理研食品株式会社)

7. ハボウキガイから作られていた幻のクロス -生物付着現象に学ぶ先端繊維工学-

大川浩作(信州大学繊維学部)

14:40~14:50 休憩

14:50~16:35 午後の部 (2)

8. 発電所付着生物対策の新たな展開 -付着生物幼生検出技術および着生制御技術に関して-

野方靖行(電力中央研究所)

9. 付着生物の幼生が選択する付着基質の微細構造と性状

室崎喬之(東北大学)

10. マガキ群居性の化学的根拠:同種貝殻に含まれるマガキ幼生の付着誘起物質の検討

サトイト C グレン(長崎大学)

16:35~17:00 総合討論~閉会の挨拶

17:10~19:00 懇親会(東京大学 向ヶ岡ファカルティハウス アブルボア)

日本付着生物学会 40 周年記念シンポジウム
「環境と付着生物との係わりの視点から今後 10 年先の付着生物研究を展望する」
2012 年 11 月 8 日

参加申込書

参加者一名につき一枚をお送り下さい。

参加申込み締切：2012 年 10 月 25 日

以下の通り、シンポジウムへの参加を申し込みます。

申込者氏名：_____

所属機関名：_____

連絡先住所：

Tel：

Fax：

E-mail：

1. シンポジウムに _____：参加する（会員の会費 1,000 円、非会員の会費 3,000 円）

2. 懇親会に _____：参加する（会費 4,000 円）

3. 以下の費用を「○」で選択してください。

会員会費 1,000 円

非会員会費 3,000 円

懇親会費 4,000 円

合計額 _____ 円（ご記入ください）

参加申込・問合せ先：CANPANセンター ACNet事務局「日本付着生物学会」担当

E-mail：ac035-ses@canpan.org

Fax：03-6229-5116

住 所：〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2日本財団ビル